



甲州市・甲州市教育委員会は、「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」を中心とした景観を未来に引き継いでいくために、文化財のひとつである「重要文化的景観」として国の選定を受けることを目指しています。選定に向けて、勝沼地域の特徴を明らかにするための学術調査からはじまり、イベントの開催、パンフレット・調査報告書概要版の刊行など多彩な取り組みをおこなっています。

文化的景観・日本遺産に関するアンケート調査の実施・結果報告

甲州市・甲州市教育委員会文化財課では、山梨大学大学院総合研究部生命環境学域菊地研究室の協力のもと、勝沼地域を対象に無作為に1075世帯を抽出し、ブドウ栽培・ワイン醸造の歴史文化を反映した勝沼地域の文化的景観と、日本遺産「日本ワイン140年史～国産ブドウで醸造する和 문화の結晶～」に関する意識の把握を目的としたアンケート調査を実施しました。

今回いただきましたご意見は、勝沼地域にお住いの皆さまの愛着のある景観の受け継ぎ方や活かし方の検討、今後さまざまな取り組みに役立ててまいります。

ご協力いただきました勝沼地域の皆さま、ありがとうございました。

調査の概要

調査実施：2021年11月末日～12月19日

調査対象：勝沼地域1075世帯

(勝沼地区315/祝地区311/東雲地区236/菱山地区213)

調査方法：抽出世帯全戸配布/郵便もしくはWebによる回答

調査主体：甲州市教育委員会文化財課

山梨大学大学院総合研究部生命環境学域菊地研究室

勝沼地域の文化的・歴史的な景観とその受け継ぎ方に関する意識調査



アンケート①「勝沼地域の文化的・歴史的な景観とその受け継ぎ方に関する意識」調査

このアンケート調査は、勝沼地域にお住いの皆さまの愛着のある景観とその受け継ぎ方に関する意識を把握することを目的に実施しました。

回収数：355通

回収率：33.0% (勝沼地区40.6%/祝地区32.8%/東雲地区22.9%/菱山地区32.9%)



「文化的景観」については、詳しくはこちらからご覧ください。

アンケート②日本遺産「日本ワイン140年史～国産ブドウで醸造する和 문화の結晶～」に関するアンケート調査

このアンケート調査は、勝沼地域にお住いの皆さまの日本遺産の認知度やその整備・活用についてご意見をお伺いすることを目的に実施しました。

回収数：334通

回収率：31.0% (勝沼地区36.5%/祝地区31.8%/東雲地区22.0%/菱山地区31.0%)



「日本遺産」については、詳しくはこちらからご覧ください。

「日本ワイン140年史～国産ブドウで醸造する和 문화の結晶～」は、甲州市と牛久市(茨城県)が共同で申請し、令和2年度日本遺産に認定されました。現在、そのストーリーや関連する文化財群の整備・活用を通じて、国内だけでなく海外へも戦略的に発信し、地域づくりにつなげる取り組みを実施しています。

アンケート集計結果の公開

甲州市ホームページにて公開しています。

「令和3年度文化的景観・日本遺産に関するアンケート調査の結果報告について」

※甲州市役所勝沼支所で閲覧することができます。

閲覧期間：令和4年2月28日(月)から4月28日(木)まで

詳しくはこちらから
ご覧ください。



甲州市教育委員会では、令和2年度より明治10年(1877)、ブドウ栽培とワイン醸造の技術を学ぶべくフランスに留学した伝習生高野正誠が刊行した『葡萄三説』の草稿(日本ワイン140年史の構成文化財)と、それをもとに一大葡萄園開設の協力を求め、関係者・有力者に宛てたハガキやその返書の解読調査・筆耕を行ってきました。

高野正誠の一大葡萄園構想や『葡萄三説』に込めた思い、今回の調査で新たにわかった当時の状況と交流関係を、高野正誠の生家から発見された史料から読み解きます。

■日時: 令和4年3月9日(水)
午後2時から午後4時まで

■会場: オンライン(zoom)
■参加費: 無料

■申込方法

参加をご希望される方は、令和4年3月7日(月)までにFAX・メールにて氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡ください。

※詳細は市ホームページをご覧ください。

※市ホームページにて参加申込書がダウンロードできます。

※メールで申し込みの際には件名に「高野家文書報告会」とご記載ください。

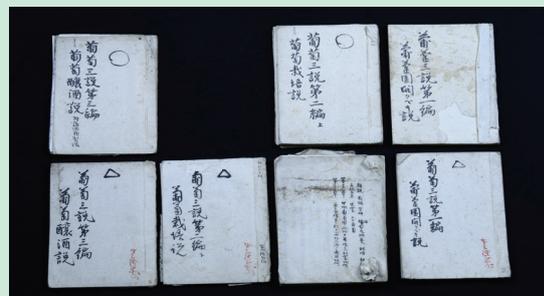
■申込み・問合せ先

甲州市教育委員会文化財課
TEL: 0553-32-5076
FAX: 0553-32-5172
mail: bunkazai@city.koshu.lg.jp

★オンライン開催後、勝沼CATVにて番組放送予定です。

【当日のタイムスケジュール】

- ・14:00 開場
- ・14:15～14:20 開会／調査概要説明
- ・14:20～15:05 高野正誠の一大葡萄園構想とは？
一大葡萄園開設のために書かれた書物について
『趣意書』『一大葡萄園開設計画摘要』『葡萄三説』
高野正誠の取り組みは現代のクラウドファンディングだった。
(甲州市教育委員会文化財課文化財指導監 小野正文)
- ・15:05～15:15 休憩
- ・15:15～15:35 『葡萄三説』『書簡』の解説
今回の調査で新たにわかったこと。
書簡からわかる一大葡萄園構想への当時の反応。
(甲州市教育委員会文化財課 萩原麻由)
- ・15:35～15:45 質疑受付
※zoomのチャット機能から質問を受け付けます。
- ・15:45～16:00 質疑応答
- ・16:00 閉会



■葡萄三説の草稿



主催 ワイン文化日本遺産協議会・甲州市教育委員会／後援 公益財団法人山梨文化財研究所

今日の勝沼ワンポイント💡

collection 10 勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具

「勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具」とは、日本ワインの黎明期のブドウ栽培や出荷などの作業に特化した用具、及び個人を含む中小規模醸造の用具のことです。

大規模醸造が主流の現在、中小規模醸造の用具は貴重であり、産業としての発展過程を知ることができ、国の登録有形文化財(民俗)に登録されています。



令和4年(2022)3月1日 発行

編集・発行: 甲州市教育委員会文化財課
山梨県甲州市塩山上於曾 1085 番地 1
TEL: 0553-32-5076



かつめま旬報 vol.11 Summer2022は
6月1日発行予定です。